

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月3日

【評価実施概要】

事業所番号	0371200387
法人名	株式会社 江 陽
事業所名	グループホーム 花の家
所在地	奥州市江刺区田原字大日195番地1 (電 話) 0197-31-2105

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号 岩手県福祉総合相談センター3F		
訪問調査日	平成20年12月4日	評価確定日	2月3日

【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成) 16年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 17人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.72人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1 階建ての 1 階 ~ 階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	2,100 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	- 名	要支援2	- 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひらた外科内科クリニック、 関根歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地から少し離れた周りに林や畑がある高台にあり、広い敷地に恵まれており、敷地内にデイサービスが併設されている。施設は広く併設のデイサービスや各ユニット間は通路で気軽に行き来でき、入浴は、千貫石温泉より温泉を運んで楽しんでもらっている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 平成19年度の評価結果については、ミーティング等を行い、職員の意見を取り入れて改善に取り組んでいるが、記録の確認は出来なかった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 実際、各ユニットの責任者が中心となり、職員ミーティングを行い創意工夫してサービスの提供をしているので、その取り組みについて、具体的な記録を残して欲しい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 議事録を確認した。パワーポイントや写真を使い、施設の活動や情報を報告し、施設の理解を頂くようにしている。今後は、会議を活かして地域との関係を深めるよう期待したいと思われる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 月1度「近況報告書」を作成して家族等へ報告している。また、家族の意見、苦情等を汲み取るため、ホームページの立ち上げを計画している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域主催の運動会等へ参加したり、地域住民の訪問を受けたりして、地域との交流をしているが、更に地域との関係性を重視して交流をしていってほしい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔」「和」「支え合い」を理念とし、掲げている。	○	利用者が楽しく笑顔で穏やかに生活できるよう新しい理念を検討しており、地域密着型サービスとして地域との関係も考慮した理念を希望したい。現在、「楽しく」「笑顔で」「穏やかに」を理念にしようか検討中とのことである。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	平成20年10月から月1度のミーティングを行うようにしている。「ミーティング記録簿」により確認した。また、市販のノートを「連絡ノート」に使用して記入している。入居者毎に担当者が気づいたことを記入している「気づきのノート」についても確認した。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「管理日誌」を確認した。部落運動会等地域行事への参加や地域住民の訪問を受けるなどして地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	19年度の評価結果については、到着後話し合いを持っただけで記録が確認出来ない。	○	各ユニットの責任者が中心となり、職員ミーティングを行い、創意工夫してサービスの提供をしているので、その取り組みについて、具体的な記録を残して欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議事録を確認した。パワーポイントや写真を使い、施設の活動や情報を報告し、施設の理解を頂くようにしている。今後は、会議を活かして地域との関係を深めるよう期待したい。今年のテーマは、「地域へ出よう」である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>連絡会議や運営推進会議以外にも連携を図るよう努めているが少ないようである。あまり行き来する機会がない、とのことであった。</p>	○	<p>地域包括支援センター等と協議し、サービスの質の向上等に努めて頂きたい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「近況報告書」を作成し、利用者の健康状態、活動状況を家族に報告して協力関係を築きながら支援をしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>21年1月にホームページを立ちあげて、家族等から意見を吸い上げることを考えている。家族アンケートはやっていなかったが、今後やろうと考えている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>事業所内の職員異動を極力なくし、利用者へのダメージ防止に配慮して支援している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>「グループホーム協会関係つづり」および「復命書」で確認した。グループホーム協会の定例会や研修会に職員が順番に参加できるように配慮している。その結果については月々のミーティング等で話し合われていた。</p>	○	<p>年間の研修計画を策定して、職員の資質向上を図って欲しい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>各種研修会(県単位・奥州ブロック他)に参加し、交流や情報交換をしている。</p>	○	<p>他事業所見学も積極的に実施し、支援に役立てて欲しいと思われる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	「業務日誌」で確認した。利用希望者には本人や家族面接のほか認知症対応型通所介護サービスを活用して、利用者が安心し納得してから利用出来るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食器ふき、ふきん干し、ふきんたたみ、雑巾縫い、農作業、草むしりを行っている。「活動チェック表」により確認した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気づきでお互いに情報交換しているほか、本人や家族からの希望のほか、日常生活の何気ない会話からも利用者の情報をチェックして意向把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「私の基本情報シート」の記録のほか、家族や職員が出し合った意見を参考にして介護計画を作成している。	○	認識出来る方については、もっとその人の意見を組入れた計画となるように行ってほしい。また、ご家族の意向も十分に反映できるように計画していくことに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入浴、食事、レクリエーション活動を記録した「認知症対応型共同生活介護実施記録」を参考にして、現状に即した介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスとの連携や認知症対応型通所介護サービスの実施のほか、家族が希望した場合は利用者と一緒に宿泊するなど柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の了承のもと、協力医療機関をかかりつけ医としてホームドクター的な協力を得ている。また、特殊疾病、精神科等についてはそれぞれかかりつけ医の受診をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の了解を得て「重度化した場合における対応に係る指針」を作成している。	○	終末期のあり方や看取り指針の早期整備をしてほしいと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報には特に注意して取り扱っている。また、接遇等については、親しみある会話・言葉遣いを大切にして対応している。	○	接遇に関する講習会・勉強会の実施を望みたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日程を貼りだしているが、できるだけ自由にやって頂いている。職員からの押し付けは行なわないように利用者一人ひとりの生活リズムを大切にして支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内の畑で季節の野菜が採れ、食べることが出来、職員と一緒に食事の準備や後片付けをしている。また、晩酌を楽しんでいる利用者もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中は合同レクリエーションをし、入浴は午後からバイタルチェックを行い入浴している。2日～3日に1回、入浴を楽しみにしている人が多い。千貫石温泉から毎日タンクを積んだ4tトラックで温泉のお湯を運び、温泉を楽しんでいる。「入浴介助マニュアル」を確認した。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者ごとに活動チェック記録をつけ、畑作業、掃除、雑巾縫い、皿を拭いたり等、利用者の趣味や得意なことを生活の中で楽しめるようにしている。「活動チェック表」により確認した。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「事業計画書」や活動等の写真を確認した。利用者の希望により敷地内の散歩や畑作業のほか、ドライブなどをして外出支援等も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、施錠をしないようにしている。敷地や建物が広いので、自由に歩いてもらっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防防火設備は業者に点検依頼している。消防計画を作成し、年1回併設のデイサービスと一緒に火災等の避難訓練を実施している。	○	夜間を想定とした火災時の避難訓練を実施してほしいと思われる。夜間帯の災害については、大きな不安を感じている。訓練もさることながら、具体的なマニュアル等の整備も検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人役員の事務局長は栄養士でもあり、吟味している。利用者の食事、水分等の摂取量は生活介護実施記録に記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、自然光が差し込み明るい。フローリング床暖房で居室、共用スペースとも快適に過ごせるようになっている。訪問時には季節柄クリスマスツリーが飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の部屋を見たところ、居室は7~8畳ほどの広さで明るく、こたつ、茶筆筒、小物入れ、いす等使い慣れたものを持ち込んで居心地よく過ごしていた。		